

道頓堀橋 どうとんぼりばし ●Dotombori-bashi
〈道頓堀川〉

大阪ミナミの道頓堀川に架かり、大阪で最も幅の広い橋が道頓堀橋。この橋が架けられたのは、昭和11(1936)年、御堂筋が道頓堀川を渡る橋として完成した。

御堂筋が最初に道路計画に挙げられたのは大正8(1919)年のことで、大阪の交通を円滑にするだけでなく、近代都市大阪の顔を形成するとともに、中心軸となることを目的として計画された。建設が開始されたのは大正10(1921)年のこと。

もともと御堂筋と呼ばれていたのは大阪の中心船場を通る道で、周辺には商家が密集していたため、3間(約5.4m)の狭い道路だった。現在の御堂筋は、難波・心斎橋間の地下鉄工事と道路工事を一体化して行い、道頓堀の部分でも川を半分づつ閉め切って、橋の基礎と一体で施行された。それにより、24間(43.6m)の広い幅員の中に6車線と歩道・緩速車線がとられ、イチョウ並木をもつ格調高い大阪のメインストリートとなった。また、道頓堀川沿いの「とんぼりパーク」が完成しつつあるが、道頓堀橋付近は平成22(2010)年度の湊町～日本橋間の遊歩道完成に向け、現在工事中である。

